

バリガムラン

2010年9月30日



バリガムランの調べを聴く。照喜名さん、ご夫妻の演奏によるものだが、バリの伝統的な音楽だ。民族楽器持参でうっとりとする独特な調べ。打楽器に魅せられ、インドネシアに渡り、民族楽器に魅せられ、ご主人ともそこで知り合いになられたとのこと。音楽が取り持つ縁だが、おかげで私達もバリの雰囲気味わうことができた。ちなみに、私は行ったことがないのだが。神聖な場所で演奏するグンデルワヤンや竹製の楽器でお二人が息を合わせての雰囲気。ホッとする昼のひと時であった。

江里 健輔先生

2010年9月29日



前の県立総合医療センター(中央病院)院長、現在山口県立大学学長である江里健輔先生のお話を聞く。「外から見た防府」という演題であったが、防府の持っている能力、文化面、立地面、歴史面など、多角的な見識を聞くことができた。

新山口駅とのアクセスをもっと高めること。港をなぜ生かさないのか？勿体ないとの思いも抱いておられた。

印象的だったのは、中央病院のことであった。

「医療人としては、県立総合医療センターは決してなくなることはない。なくなってもいけない。他市は市民病院を抱えて財政負担にあえいでいるが、それからするとわずかな負担で大病院があることを認識すること。しかも救急医療では県下でトップである。ドクターも防府は住みやすいらしく居をかまえる方も多い。」

久しぶりに明るい話を聞いた。良い話を伝えることもまちには大事なことだ。

辻井 正先生

2010年9月28日



日本で最初に、おもちゃライブラリーを設立したのが、辻井先生である。もう十年になる。

いや、まだ十年というべきかもしれないが、多くのことを教えていただいた。

今日はその辻井先生の研修会である。久しぶりにゆっくり拝聴した。実践から生まれた理論はやはり素晴らしい。

その積み重ねが、錦江保育園内にある防府子どもの城トイライブラリーにつな

がり、保育の考え方に飛躍的な向上を見た。

保育・教育のあり方で、実際に子どもたちは、自律を学び自立していく。

私は是非、つくりたい。世界に誇れるこのスタイル。

このスタイルで「子育ては、防府市で！」という素敵なメッセージを持ったまちづくりの流れを！

一本の楠

2010年9月27日



一本の楠にまつわるご縁。午前中、たまたまお会いした方が、家のお庭を見せて下さった。そこには、かつて、一本の大きな楠があり、道にも張り出すぐらい立派なものであったそうだ。

その楠は、今では自坊である善正寺の本堂に使われていることを初めて知る。何とありがたいご縁だと素直に思う。

そのことを伝えたかったため、私をお庭まで引き入れて下さったのだ。

その楠の跡に「五重の塔」が置いてある。

そのお庭のことは、忘れえないものの一つになった。心がつながっている。

つながる心。心をつなげていくことがこのふるさとはに求められている。

地道ではあるが、その作業を優先していく「時」ではなかろうか？

中関小学校秋季大運動会

2010年9月26日



中関小学校秋季大運動会、教育後援会会長として開会式に出席。ラジオ体操も一緒にしたが、きちんとした清々しい入場行進に、よりいっそうさわやかな気分になる。

新入学児童のかけっこもあり、希望に胸ふくらむひとときになったことと思う。

午後は、神戸子ども総合学院主催の教育セミナーに講師として出席。1時間半を2コマ計3時間である。受講者は、経験豊富な方も多く、質問も実践的であり、最後は時間が超過してしまった。

「あなたの話を聞くと胸がスツとする。また、やる気が出てきたわあ。」「やっぱりこのやり方で良かった。自信ができました。」「変えることは大変だけどトライを続けます。」などのありがたい評を受ける。幼児教育・保育の世界では改革派なのだが、地元でのアピールが足りないようだ。

帰りは、昨日から大阪での結婚式に行っていた娘と新神戸駅で待ち合わせて、一緒に防府に。

車中は、かなりいい時間であった。

中国人船長釈放

2010年9月25日

かつて、自民党福田政権の時、超法規的措置で、日本赤軍のメンバーを釈放した。割り切れない思いで、その報道を見ていた。幼心にも関わらず、むなしさを感じた。

「人の命は地球よりも重い。」という言葉も脳裏に残っているが。

今朝の新聞やメディアでは、昨日の尖閣諸島中国船船長保釈のニュースを大きく扱っている。正直がつくりきた。しかも、地検独自の判断で行ったというのである。この度は民主党菅政権ではあるが、この国は、外交や国土をどう考えているのか、いっそう不安になった。

近隣の諸国と仲良くやっていくことには越したことはない。しかし、危険を顧みず法に則って海上保安庁の職員は職務を遂行したにもかかわらず、経済的打撃を恐れ理屈の通らない終止符となった。これで、モチベーションは維持できるのだろうか？ 今後、中国にはいいなりになってしまうのではなかろうか？

毅然と自立した国家のスタイルを国民に見せてはもらえないのか？ 厳しい頑固おやじの姿はもうこの国では見られなくなったのか？

菅首相には最初は期待させられても、すぐにはがっかりさせられる。

佐波川

2010年9月24日

午前中、佐波川の河口に行く。

季節の変わり目か、青々とした水を満面に湛えて、まるで湖のようにどっしりとした風景にふるさとの美しさを再認識。

その風景を眺めていたのだろうか、広島ナンバーの車が止まっており親子らしい二人連れが、心地よい風に吹かれて立っていた。

防府新大橋からの眺めとはまた違った味わいがある。

角度を変えて、物事を見ることができる心の余裕はいつも持っていたいと思う。

今から、過ごしやすく自然も色づき始め一段と鮮やかで美しい季節を迎える。

夜は会議の後、久しぶりにグリークラブの練習に出かけようと楽譜を持って家をでる。今までの曲と違い難しい歌なので、相当練習しないと間に合わない。ちょっとした危機感を覚えているのだ。

しかし、残念ながら会議が長引き、練習にまたまた行けず。メンバーの皆様にも申し訳なさが募るばかり。

しかし、人生で二度とない 56 歳のこの時期。防府は良い話題が少ない上、何か騒然とした感じ。

今年の秋こそ、バタバタと駆け足で過ぎ去っていくのではなく、味わい深く生きていきたい。

「長島愛生園」からのお客様

2010年9月23日



ほぼ毎年のように、長島愛生園から、看護師さん4人が訪ねてこられる。防府市名誉市民光田健輔先生のお墓（自坊・善正寺境内）と、中浦側に少し登ったところの生家跡、記念碑に参られるのだ。

私は、久しぶりにお会いしたが、お話しているうちに、段々といろいろなことを思い出す。

十年以上前になるのだろうか、バス一台を仕立てて患者さんだった方々が、来寺された。多くの報道関係の方が集まっている中、バスを降り、お墓に参られた。実際に光田先生と親交があった方たちだけに、涙ぐんでいたり、「先生、来ましたよ。」と声をかけられる姿に胸が熱くなったのを覚えている。

その中の一人多田さんは、その報道陣とのやりとりで、「今の時代の尺度で昔をはかつてはだめ。当時の時代背景も考えてあなたがたも発言を。」とおっしゃった。

また、藤井善さんのことも話に出る。本名伊奈教勝さん。講演にも来ていただき、何よりも私自身が多くの教を請うた方である。

「偏見とは誤ったものの見かた、考えである。差別とはそれを行動に移すこと。」とはっきりともの見方を教えてもらったのだ。

何度も愛生園を訪問したが、「何事にも光と影がある。」と諫めて下さった方も。

あっという間に時は過ぎた。

長島愛生園はもうじき開園80周年を迎える。今、80周年記念誌を製作中とのこと。ただ、患者さんであった方々も平均年齢82歳、十数年前は600名であったが、現在は320名ほどだそう。おそらくこれが最後の記念誌といわれる。

「どうぞ、できあがったら、善正寺だけではなく、防府市、そして中関小学校にも送ってください。市役所にある先生の銅像は道路から後ろ姿ですがよく見えるように整備してありますよ。」と申し上げお別れをする。

『ところで、長島愛生園ってご存知ですか？ハンセン病の療養施設で岡山県邑久町にあります。近くには竹久夢二の生家もあり、瀬戸内海の風光明媚な小島にあるのです。』

私は、防府の方には是非一度は訪問され、実際に多くの方と会話をされ、何が真実か、何が大事なことか、自分の目で確かめてもらいたいのです。

先人たちは、このふるさとの状況をどう見ているのかとも思うのです。』

最後に「夢へのその一步。光田健輔物語」という絵本を防府青年会議所時代製作しました。なかはらかぜさんが描いてくれたのですが、もう少し残っています。お求めの方はご一報を。

「驚き」・「防府市・土地下落率第一位」

2010年9月22日

「大阪地検の検事を逮捕」の報を知って驚いた。

しかも、まさかとみんなが思っていた村木局長の事件に関し、証拠隠滅まであったとのこと。あり得ない話だ。

だからこそ余計に昨年厚労省雇用均等・児童家庭局長であった村木さんにおいで頂いていれぱと思う。

局長として、山口県で開催した子育て支援センター全国セミナーに来ておられたら、子育て支援に関し、山口県の現状や活動を現地・現場で理解してもらえていれぱ、さらなる発展があつたと思うのだ。

なさけないほどの「れぱ」「たら」のオンパレードである。

一つの事件が、国の将来まで、子育ての事まで関与していたことも肝に銘じてほしい。

もう一つの驚き。

昨年同様、防府市が図抜けて土地下落率最悪。下落率第一位とのことで新聞に大きく報道される。

「何故？」「やっぱり！」と思いが交錯する。

商業地も下がっているが、特に住宅地の需要と供給のバランスがうまくとれていないのである。

しかし、根底にある要因は生活、暮らしに市政が的確に対応できていないことである。

行政の方向と現場の認識が離れすぎている。

私は何度も提言している。隣接地、周南市・山口市とお年寄り・子育て世代へのサポートが違い過ぎるのだ。

早く「チーム防府」でリーダーシップを発揮されたい。

「神戸」からのお客様

2010年9月21日



神戸から、保育士を目指し勉強中の大学2年生が来園。将来自分で保育園をしたいことと、卒論のテーマに「環境」を取り上げたので、是非見学したい旨、学校の事務長さんから連絡が入り、お引き受けをする。午前中は、中関幼稚園でプロジェクトメソッドの実際や保育空間を学び、午後はきんこう保育園のランチとおもちゃライブラリーや生活の姿を紹介。

私は、午後2時から1時間程度、ここまでの流れやこれからの思いを伝える。

彼女曰く、

「ここまで、保育室、園庭、プログラムを考えておられるとは思わなかった。」

「卒論のテーマが環境なのでそれについてのお考えは？」

「園児の人数の多さにどうなっているのかと思っていたが、こんなに子どもたちが落ち着いているとは思わなかった。しかも押さえつけられた静かさではない。シーンとした静かさではなく落ち着いた静かさですね。」
「何か参考になる本はありますか？」

矢継ぎ早に、感想や質問をぶつけてくる。

かつて県内でこのような学生にあった事はないが、よく聞けば、一度4年制大学を卒業し3年ほど社会で働き、保育士になるために入学しなおしたそうである。やはり、「目的意識」が違ったのだ。経験が無駄になっていない。

大半の学生は、流れの中で、高校・大学と進学。保育士の資格がとれたので、保育を始める。頭で描いていたことと、違うのは当たり前で、現実には直面し悩む。成長していくなかで、生きていく土壌を豊かにしてもらっていると乗り越えやすいのだが。

人間、いつかは現実と向かい合う。
きょうの神戸からのお客様も、悩みを持ちつつ、今の選択にたどり着いたのだろう。
さわやかな笑顔で防府駅に。

「あなたの学校の先生は、全国大会がすぐできる先生ばかり。凄いよね。地方からみると羨ましいよ。」と言うと
「はい、本当にそう思います。ありがとうございます。」
その答えにまだまだ未来は明るい、希望を実感。

敬老の日と彼岸の入り

2010年9月20日

9月20日、敬老の日と彼岸の入りが重なる。かつてはそういうことはなかったが、祝日に関する法律が変更され、このようなことが出現しだしたのだ。

「敬老の日」なればこそ、あえて連休をつくるため変更することもなかった。

地区の敬老会に参加して「敬老」の意味、その心底のありがたさが改めてわかったように思う。

「元気になったね。」「頑張りいよ。」「体が丈夫になったことを、元に戻ったことを証明したようなもの。」「ふるさとを頼むね。」「いろいろ、たくさんの声を聞く。

暑さ寒さも彼岸まで、と古来よりの言い伝え。まだ蒸し暑さは残っている。

夕刻はお通夜に。今年の寒い冬、一緒に後援会のお願いに歩いてくださった方だ。その時分、もう体調はあまりすぐれなかったと思っていたが、本当に心ある方であった。

今頃の政治家は、簡単に「いのちを懸けて」とか、「進退を懸けて」というが、実行された例はない。そこにも政治

不信の原因があるのだが。

まさに「命」を懸けて支えてくださった。棺の中の尊顔にふれ、ふっと顔を上げようとした瞬間、その方の唇が動いたように見えた。

「頑張れよ。ふるさとをたのむ。」そう聞こえた。

その方の身命を挺しての思いを体中に叩き込んだ「敬老の日」「彼岸の入り」であった。

出会いと別れ

2010年9月19日



長女の長女が9月3日に産まれた翌日、帰国した主人が、きょう再度赴任地

ロンドンへ出発。

これから少なくとも3ヶ月親子は会えなくなる。

海外での出産を選択する場合もあるが、日本の出産環境とは雲泥の差がある。

ちなみに、イギリスでは国の保健を使うと出産まで2・3回の診療。出産後は1日で退院。

それでは不安、ということになると保健外診療のプライベート医院に行くと一回の診療で10万円だそうである。

出産費用は2百万円ほど。

まさに究極の選択なのだ。比較文化論とよく私というが比べてみるとその実際がよくわかる。日本と外国を比べると、日本のありがたさがわかることが多い。逆に防府と隣接を比べると、特に暮らしのことは落ち込みがひどい。比べて見て初めてわかることが多い。

今の防府は「井の中の蛙」ではなかろうか。

新山口まで送って行った時のショットです。

どうしてそんなにリスクをとるのですか？

2010年9月18日



子育て真っ最中。夫婦で朝から夜遅くまで働き、愚痴をこぼすところを行動にかえて、前向きに生きておられる奥様。「島田さん。幼稚園、保育園、お寺とあって、私から見れば、もっと楽な生き方があると思うのに、どうしてそんなにリスクをとるのですか？」昨日の夜の会合での会話の中の言葉。

思わずドキッとする。「そうだよなあ。言われるとおりになあ。」

何が自分を駆り立てているのか。

何なんだろう。

でも、幼稚園保育園に携わるようになった 29 歳の年からカイゼンカイゼン（改善）の連続。何がそこまで自分を駆り立てたのか？

勢い余って多くの方にもご迷惑をかけたのも事実。

しかし、結局は、純粹に、まちづくり、人づくりへの思いが募ってのことである。

確かにそう思うのだ。

この「ふるさと」を安心して次世代に渡せるものにできるかどうか、いつの世代も心ある方々は、それを願って行動し、今のこの国をつくってこられた。

それでも立場の違う方の中には、見方をかえて市長選にからみ「私物化、私物化」と恥も外聞もなく叫んだ方もいる。保育園の園長に何ができるといった方もいる。素人に何ができるといった方もいる。

そんな誹謗中傷にもかかわらず「どうしてそんなにリスクをとるのですか？」と見てくれている人もいる。

だから、頑張れるのです。

きょうは、高村代議士と敬老会に行き、午後は同級生の横山さんがやっている吉祥窯の方々の作品展に。

作品に、個性がしっかり出ていることに驚きと感動。

ちなみに明日までですので、アスピラートへ是非ご来場ください。

午前中は、「孫育て」の講演で、お話をさせていただきました。

時間を間違えました

2010年9月17日



地区の敬老会に30分早く伺います。準備真っ最中で、椅子やテーブルを出すお手伝いをする。時間を間違えたのだが、かえっていろいろなお話をすることができて、ありがたかった。

記念写真を撮影する前の、ひとコマに心がなごむ。

夕方、市議会議員定数半減にからむリコール中止のニュースが入る。どうしてリコール中止なのだろう。最初に記者会見で堂々と言われたのだから、望んでおられるかたもいらっしゃるのに、ぶれずにやられたらよい。名古屋の市長さんは、ぶれずに、ひた向きにやってらっしゃるのに。それとも防府の実情が、わかっていなかったのだろうか。

ひと月も経たないうちに方向転換？

ひと月もしないうちに、防府の実情はそんなにも変わったのだろうか？

老人ホーム訪問

2010年9月16日



老人ホームに保育園の子どもたちと訪問。合唱・合奏そして第二保育園の子どもたちが、「おおかみと七匹のこやぎ」の劇を披露する。

多くのおじいちゃん、おばあちゃんの前で、しっかりと発表することができ、素敵な雰囲気になる。

おじいちゃん、おばあちゃんの笑顔も本当に素敵であった。

子どもたち手作りの「小物入れ」を、お一人お一人に手渡しをすると、もっと素敵な笑顔になられたのがとても印象的であった。

子どもたちの持っている「力」は、すごい。

音に敏感で、大勢の人の中に入るのを嫌がっていたS君。生まれながらに障害があるのだが、おじいちゃんのところに行くと、自分でプレゼントを手渡そうとしてくれた。

3年前の入園の時と比べ「強くなったなあ。たくましくなったなあ。」と感じる。嬉しかった。感動した。涙がにじんだ終わった後、「よくやったね。」とぶちほめると、いい笑顔で応えてくれた。

この「えがお」を大事にできるふるさとづくりに一所懸命。

今、行政が何をしなければならないのかを、取り組む順番を、冷静に考えるべき時なのに。

それが私の「暮らし 一番宣言！」

薊が丘(あざみがおか)

2010年9月15日

薊が丘
人はみな
迷いながら
生きてきて
故郷を見に
帰ってくる

昨日のブログの言葉について問われる。携帯電話の写真であったので細部が見えなかったようだ。文章にしてみると、新たな気付きが見えてくる。多くのご苦労をされたからこそ見えてくるふるさとのありがたさ。幼い時に目に焼きついたその風景が人を支えているのかも。

故郷(ふるさと)とはいったい何であろうか！

「旅は帰れるところがあるから楽しい。」と、たしか詩人の高見順がよんでいたのを思い出す。

帰れるところがあるから旅は楽しい。人生は旅。旅の終わりに、ふるさと防府のことを思っておられる方が多いのも防府らしい。

さらにそうなるように、勤めていく姿が問われている。

萩原益三さんのこと

2010年9月14日



昨日、ご訪問したお宅で、萩原益三さんの書を拝見する。

「多くの方に見ていただき今では玄関に飾っています。生前からあなたのことを、気にかけておられて、将来の防府を託すのは彼だ。とよく言っておられた。きょう、こうして見ていただいたのもあなたへの励まし。見守って下さっているから頑張ってください。」と、胸打つ、心温まるご声援。

萩原益三さんのことを、ご存じの方も多いと思う。防府出身で電通の常務を経験され、あの世紀のソプラノ、佐藤しのぶを育てた方である。

もう三年前になるだろうか？佐藤しのぶさんが防府市で演奏会を開かれた後、ご一緒させていただいた。驚いたことに、すでに亡くなっていらした萩原さんの著書を持参しておられ、「防府のこと、萩原さんのことを思いながら本を読み今日の演奏会に臨みました。」と言われた。

「千の風になって」が流行する前だったとは思うが、佐藤しのぶさんの前で、その千の風になってを歌ったことが思い出に残る。

まだ、体力的に本調子ではなかったのだが、今考えても冷や汗ものである。

「冷や汗もの」の人生も、また良しか！

厚生労働省課長補佐との懇談

2010年9月13日



午後、広島にて森田厚生労働省課長補佐との懇談。平成22年6月29日少子化対策会議で決定した「子ども子育て新システムの基本制度案」の説明及び意見聴取が主な内容である。

一時間弱の説明の後、質疑応答。中国地方各地からの代表が、次々質問する。

「幼稚園と保育園を一緒にすると言っても本当に可能なのか？実際には、保育料のこと、定員のこと、保育内容のこと、隔たりが大きいのではないのか？」等、経営サイドの不安感が噴出する。保育士さんやスタッフの給与についても、改善、見直しの声上がる。

私も、学力テストの結果発表において、幼稚園・保育園出身者で成績の違いに関することや、教育・福祉を柱にした国のスタイル、いわゆる国家の基本政策をしっかりとらせることで政権が変わっても揺るがないものを造るチャンスの時であることを訴える。

課長補佐は丁寧に真摯な態度で返答され、好感が持てる。なお、課長補佐の前職は広島市に勤務とお伺いする。

国との連携、ノウハウの交換、人的交流、いずれも防府には無いことが心配だ。未来に対して手が打てない危機感をどう訴え、表現し伝えていけばよいのか。気がついたときには「茹でガエル」にならなければいけないのだが。

敬老

2010年9月12日

地域の敬老会に参加。戦前戦後の大転換の時代を乗り越えてこられた、そしてこの国を形造られたことに心からの感謝申し上げる。

主催者、来賓あいさつの中にも、そのお礼、感謝の思いが伝わってきた。また、今年の記録的な猛暑・炎暑のこと、そして100歳以上の方々の送られないまま戸籍を残し行方不明となっている現状も含まれていたことも印象的であった。

早朝、年配のご婦人の話も素敵であった。

『ばあちゃんに連れられてようお寺に参りよったもの。小さき時は木魚がこんなに大きく見えていたのに、大人になって参るとそうでもなかった。そのばあちゃんがよう言ってくれよった。「天知る、地知る、人知る」と言うての、人が知った時にはおおごとになっておるから、よう気をつけて、正直にの。』

「昔の人じゃから、字は書けんかったけど、みんな頭に入っていて、かしこいばあちゃんじゃった。」

「敬老」を教えていただいた、きょうも一日、良き日であった。

厚生労働省 村木厚子元局長のこと

2010年9月11日

昨年、山口県で「第2回子育て支援センター全国セミナー」を開催する。私が実行委員会代表、いわゆる実行委員長として、多くの委員会のメンバーに支えられて何とか二日間のセミナーを終える。

また、大阪市大、山縣文治先生や下関の中川先生のご尽力によるところは大きいものがあり、二日目の最終シンポジウムには、これからの子育て支援に対する「山口宣言」を発表することができた。

実は、このセミナーに厚生労働省村木局長が来られ、講演をしていただく予定であったのだ。当然、メインの講師となる。

かつて、子育て支援センター関係の全国大会で厚生労働省局長が講演することはなかっただけに、関係者一同、今までの仕事に対する経過や、発展させてきた苦労もあり、講演を快諾いただいた時には喜びを持って歓迎したのである。

それが、突然のこの事件。心配して担当が局長にお会いしに行くと、「私が行きます。もし行けなくなった時は代わりを必ず出します。」と毅然と返答していただいた。

残念ながら、山口県での全国セミナーで講演はできなくなったのだが、女性として、女性局長として「子育て支援」にかける思いは相当なものがあったはず。

関係者一同本当に残念な思い、ある意味悔しい思いをした。

当時関係者の話などからしても、みんなが村木局長は無罪だ、事件に関与してはいないと確信していたのである。

この度の無罪判決は私たちとしても嬉しい、ホッとした。記者会見のやり取りを見ても、あのような状況になられながらも配慮ある言葉で対応され人柄がにじみ出るものであったと思う。

今後は、空白になった時間を、子育て支援も含めて全力で取り戻していただければと心から願うばかりである。

在家仏教協会

2010年9月10日



在家仏教協会をご存知でしょうか？「宗派を問わず、仏教について学ぶ活動」ということで、協和発酵の社長であった加藤辯三郎さんが初代理事長を務められた。

ご縁があり、ここ数年、富海の円通寺ご住職児玉識先生に同行し、主に仏教讃歌を題材に歌とお話をしている。

その会が、本日宇部市で開催される。ちなみに防府では今年度は3月に

開催された。

「望郷—シベリアの果てから—」も披露する。

9月2日のブログにも記したが、防府市富海在住の兼政さんが作詞をされ、シベリア抑留時にふるさとへ帰りたい切実な願いを詩にされたものである。

きょう、改めて感じたことは、この歌は私たちが歌い継いでいかなければいけない歌・詩である。

歌詞の中で「別れてすでに幾年(いくとせ)か」1番2番の歌詞は同じである。しかし3番は「別れてすでに幾年ぞ」と変わってくるのである。「幾年か」から「幾年ぞ」。この「か」から「ぞ」への思いに今日は涙した。涙が出てくるのを感じながら、この歌を3番まで歌った。

会が終わり、一人の翁が出口で待っておられ「お茶を差し上げましょう。きょうはよかった。涙も出たが、伝えてほしい。」

よく聞くと、軍隊時代、元読売巨人軍の別所毅彦投手と同じ部屋で過ごしたそうである。「宇部で彼の講演を頼まれてね。いいやつだったです。東京に行けば会ってね。私より早く亡くなってしまったが。彼は鬼軍曹と野球界では言われていたが実際は少尉でした。」

印象的だったのは、90歳近くになられるその方が、先に所用で喫茶店を出る私たち二人に対し、扉の外まで出てこられ、きちっとした挨拶をされたことである。

この国の伝えなければならない本当のものを、私はまだまだ知っていないように思う。

午前中は、年中組さんの「買い物実習」に参加。

- ・みどりでながいもの
- ・しろくてしかくいもの
- ・あかくてまるいもの
- ・きいろいもの

以上の4つを3グループに分かれてそれぞれで買い物をする。ほうれんそうやニラ。食パンやチーズ。トマトやりんご。そしてバナナなど、考えを巡らしながらスーパーマーケットでの買い物を楽しむ。

「色と形」を会話に入れるだけでも、子どもたちの思考能力は育っていく。

ささいな積み重ねが教育には大事なのである。

種まき

2010年9月9日



幼稚園・保育園の園児服では、全国シェアNo.1の中村被服(株)様の会社訪問にお伺いする。
園児服だけではなく、車のシート、そして最近は発泡スチロールを使った保温用バッグの製造もされている。
「商品は常に作り変えなければならない。」の鉄則通り、守るべき基本は大事にしながら変化すべきところは大胆に対応されているところは見事である。
防府に全国シェアNo.1の本社があることも、市民の誇りではないだろうか。

もう一つ。きょうは素敵なプレゼントを頂戴する。
「ブリヂストン吹奏楽団久留米コンサート」である。
楽団結成 55 周年、防府市公会堂 50 周年なども兼ねてのことであるが、
幼稚園保育園の年長組がリハーサルに招待されたのだ。

特に、子どもたちにといいことで、フラッグやダンスも入ったマーチングのリハを見せてもらい、みんな大喜び。

舞台狭しと動きながらの演奏に思わず歓声を上げ、興味深く見入っていた子どもたち。何人かの胸の中には、このことが将来の大きな夢の実現となるきっかけになったのではないだろうか。

「はあ、帰るん！」という子どももいたのだが、あるお母さんの言葉をお借りすると「ええねえ、子どもたちは。演奏会に行きたかったのにチケットがなくてね。」ということなのである。

公会堂を出発する時も、とても丁寧に送ってもらった。
「演奏会では、子どもがいるとうるさいとか言われますから。リハーサルであつたら、子どもたちもしっかり楽しめますしね。また、来てください。」

このような考え方があることは、素晴らしい。しっかりと「種まき」をすること、お金をかけなくとも、「人づくり」のチャンスはいくらでもあるということなのだ。

きょうも、感謝の一日。

創造的改革

2010年9月8日



以前に、孫育ての時間(とき)という本の紹介をした。きょう、9月3日に出産した長女の長女が退院し、いよいよ私たちも孫育ての時間に入る。

「抱っこさせてもらえると、本当にありがたい。」それが、実感であるが、しばらくは、主人も一緒にいてくれるので、大変な人数の食卓となる。

ワイワイガヤガヤの中で、人生の一步目を踏み出すことも大事であろう。

ただ、今は「孫育てと力むことなく、子育ての邪魔だけはしないように。」と自分に言い聞かせつつ、この文章を書いている。

午前中は、神戸子ども総合学院事務局長さん一行が来園。中関幼稚園ときんこう保育園を見学。来年度からの新しいスタイルのカリキュラム編成のこともあり、より先進的な現場をとのことで見に来られる。

「新たな時代にあった幼児教育のスタイルを防府から発信する」とお話しすると、「山口県は長州ですからね。」との返答。

地方こそ創造的改革を成し遂げるチャンスがある。

大先輩と

2010年9月7日

午後、大先輩のお話を聞く機会を得る。

これからのまちの姿や奉仕のあり方について、貴重な経験や思いが聞けた。

よく時間を取っていただいたと感謝するばかりではあるが、並大抵のご苦労だけではなく、ご努力、そしてぶれないことなど「信頼」を得るためのスタイルが生来身についておられたことも実感する。

「市長選お疲れ様」とありがたいお言葉も。

折角の機会なので、「私のまちづくりへの思い、選挙のあり方がその後の政治活動・結果につながる。いわゆる、政策の違いは論ずるけれど、個人的な誹謗中傷は言わなかったこと。それを甘いという方もいるけど、そこ(選挙のあり方)が変わらないとまちは変わらない。」など、思いをお伝えする。

「島田さんは、人のつながりやふれあいでまちを変えていこうとされるんですね。」と、私の思いを一言でまとめて頂いた。

続けて

「政治をやっている、それだけでは埋めきれないものがあるのでしょうか、現職を退いて、奉仕活動を懸命にされている方もいらっしゃる。」

また、違った角度から、お話を聞くことができた。ご自身の世界的な人のネットワークを駆使して貴重なご示唆を頂戴した。

私は、現状にあまりにも満たされないものがあり、次世代への思いもあり、市長選挙に出た。

「政治ですべてが変えられるものでもないということ。」

原点は「人づくり、自分づくり。」を伝えて下さったように思う。

「自分づくり」真っ最中の島田のりあきです。どうぞ、鍛えてやって下さい。

誰かがやらなければ！

2010年9月6日

「誰かがやらなければ」そんな思いですっと仕事を続けてきた、いや、生活をしてきた。

その思いが届くかどうか？その一点に懸けて仕事をしてきた。
紆余曲折・試行錯誤の連続。うまくいったかに見えた時には陰口、誹謗中傷。
それが世の常だと思っていた。

「誰かがやらなければ」その延長線上で防府市長選挙に出馬。

昨日日本で初めて「バチスタ手術」をした天才心臓外科医のテレビドラマを見る。
引き込まれるように見入った。インターネットで、神の手を持つその須磨久善先生のことも調べた。

「誰かがやらねば」

「やさしい人が困る方向へ時代はどんどん進んでいる。」

「クリエイションマインド&チャレンジマインド」

「今日を生きる」

ドラマの中の言葉だけれど、もっと多くの人にわかってほしい言葉である。

「あんぱん」と「メロンパン」

2010年9月5日

9月3日に出産をおえた娘から、「あんぱんとメロンパン買ってきて」のリクエスト。
午前午後と所用のため、立ち寄れなかったが、3時過ぎにやっと病院に届ける。
少しずつ回復しているのであろう、食欲も旺盛で安心する。

待合室に電話をかけに行き、そのままついウトウト。

「島田先生！」の声にハッと目覚める。知り合いの先輩の奥様であるが、お嫁さんがお腹が張るということで、安心のため、入院されているとのこと。

いろいろなケースがあることを改めて実感するが、それにつけてもナースセンターを中心にいつときも休む暇はない様子。

分娩室の前ではご家族の方が行ったり来たりされている。きょうも出産があるのであろう。

「産婦人科」、防府市の大きな課題である。

「正しい選択？」と「議員定数半減」

2010年9月4日

防府市議会便りを見て驚いた。

この度の防府市長選と併せて実施された市会議員補欠選挙で当選した議員が一般質問で、「正しい選択」と防府市長選の結果について言及していた。

では、私たちは「正しくない選択」であったのであろうか？

私に投票して下さった24,682名の方は正しくない選択をした人であったのか？

ふるさと防府のまちづくりを本当に願い理解している方であれば、市の最高議決機関でこのような発言がなされること自体私には考えられないレベルである。

これは、まさに、独善的、独裁的な考えであらうし、これでもって市の運営、市議会議員半減を推し進めるのであれば大変なことである。排除の論理そのものではないか？

絶対多数と言われる有権者の50%以上ならいざしらず、あくまでも相対多数でのことであり、得票率33%と26%のことなのである。

私は、かえって、このような発言は市長の真意に沿わないものではないか？

結果的に、思いとは逆の方向にいくのではと危惧するばかりである。

ことの真意を確かめるため、どのような発言をされたか議事録を精査したい。

折しも、昨日、市議定数に関する特別委員会で、反対多数で半減案は否決されたとのこと。

メリットデメリットをしっかりと審議し、市民にわかりやすく説明する責任は執行部とともにもないのだろうか？

なお、この度の、市長選は市議定数半減のみの審判ではなかった。

市長給与半減や退職金のこともあった。また、すでに法的根拠はない合併問題や私どもが「親子で私物化」という、誠に個人的品格まで俎上に上げたではないか。

ちなみに「親子で私物化」などという発想は私には全くない。ないだけに、そのようなものの見方、考え方ができる豊かな経験と想像力??には正直驚いた。

視点を変えると地方自治は「私物化」できると思われている証しでもあろう。

そのようなことまで含めて、数多くのことを市民に問われたのではないか。

以上のような経過を経て、「市議定数半減」を真摯に考えられるのなら、この一点に絞って住民投票をなさったらいかがだろうか、半減まではいなくても、時の流れもあろうし、かえってすっきりする。

早く決着をつけて、本来のこのまちのビジョン、景気、福祉や教育の切実な問題に取り組んでほしい。

半減案否決を報じた今朝の新聞。質問や答弁、そのやりとりが見えてこない。傍聴席もたった20人ほどで事足りる話なのか？

せめて、重要案件であれば、生中継して、市民にその審議のあり方、どちらが真摯な態度で委員会の臨んだか、実感できるように生中継ぐらいほしかった。

真のガラス張りの市政、真の議会改革をするため、山口市のようにケーブルテレビで市民に臨場感あふれる議会の様子を公開することも大事な市政を運営するものの姿勢である。

初孫誕生

2010年9月3日



昨夕から何となくその気配。今朝、長女を車に乗せて病院に。到着後、しばらくして分娩室に。

赤ちゃんの声がしては、室の前に。家内は外国出張中の主人に代わり、ビデオを持って分娩室に。自分でもウロウロしている自分を感じる。自分たちの時より気にかかる。

昼過ぎ、女の子が誕生。

分娩室に入っていた家内が、赤ちゃんを抱いて出てくる。

ジーンとくる感動。

「よくできてくれた。」とつぶやく自分。
自分の子どもの時よりも、何故か感動を実感。

その後、夕刻までの会議に参加。
処置でいろいろあったようで、少し心配したが元気な娘の笑顔を見て思わず握手。

病室？で、面会時間まで、過ごす。
赤ちゃんの顔はいくら見ても見飽きない。不思議な魅力。

そうそう自分たちの時は、どう育てていくか、必死の思いであったのだろう、感動に浸る余裕はなかったことを思い出した。

お世話になった病院の方、すべての方に感謝。

望郷—シベリアの果てから—

2010年9月2日



かつて、NHK みんなの歌で「小さな木の実」という曲が流行った事を覚えていらっしゃいますか？
その曲を歌っていた大庭照子さんのコンサートが、きょう防府市アスピラートで開催された。入場料は無料。富海出身の角田さんのご尽力もあり、防府でのコンサートとなったようだが、出身地の熊本にはNPO法人日本国際童謡館を設立され、現在も童謡を中心に活動をされている。

70歳を超えていると言われるが、若々しくみずみずしい歌声であった。

また、このコンサートでは富海出身で今年 92 歳になられる兼政武夫さんが、シベリア抑留時に作詞された「望郷—シベリアの果てから—」も披露されるということもあり、家内や臨月の長女と聞きに行った。作曲者は不明。この曲を兼政さんの歌声から採譜をされた江村さんは今年 6 月急逝されたが、私自身もこの曲を、講演の時にも歌うことがあり、思い入れも深い曲なのだ。

さらに、家内にとってシベリアはさらに篤いものがある。

家内の父、私の義父にあたるのだが、シベリア抑留の経験があり、しかも軍人ではなかったにもかかわらず「あの軍人によく似ている！」というたった一言(密告?)で連行となったつらい思い出があるのだ。

何とか無事帰国して「3年寝ていた。」体力が回復するのに、3年かかり、やっと会社勤めを始めることができたそうである。

あまりシベリアの話は聞けなかった。亡くなって 10 年近くたつが、その話はしたくもなかったのかもしれない。きょうのコンサートは、平和を願い、新たな行動のきっかけにしていきたいと思った。

本日の写真は、コンサート終了後、出産間近の娘と家内とのワンシーン。

防府の将来像を示せ！！

2010年9月1日

「いかに地域と連携をはかって子育てをサポートするか」という昨日のブログに関し、ありがたい報告を頂戴する。

その方は、定年後「地域で(親も含めた)子ども達を支えたい。」「そのために自分たちは何ができるだろうか?」と考え地元密着型で活動されている。

子どもたちが海岸の散策やドングリ拾いをする時には多くのボランティアの方と参加され、自然のこと、海や山のことを教え伝える活動をされているのだ。

この方が「今後さらに自分たちに何が出来るのだろうか?」と言われるのである。

「たとえば山を親子で歩く。そして、自然の中で行う料理教室など、最大限の手助けがしたい。子ども達をこういった支援の元で育てる事によって、その時期に大事なものを育てておきたい。」とのこと。

「地域との連携は、一方的なものではなく地域からの声も大事にして実施すればもっとうまくいく。」ということであろう。

まさにその通りである。

国も防府もあまりに一方的に物事を進め過ぎるきらいがある。

お互いの思いをよく聞いて、「まち」を造っていく時代になっているのに。

シンポジウムの“演題”にある思いで、このふるさとで素敵な子育て(孫育て)を 実践している方がいること。その素晴らしさに 感動なのである。

昨日「市議定数半減」の会を設立し、市長も出席されたとの報道。

このことは、これからの防府市政に大きな変化をもたらすことであるが、未だメリット・デメリットは市民に伝わってきていない。

そのことが成されて、何が変わるのか？市議会議員半減という大きな変化をもたらすことであるから、市政上もかなり大きな変化(メリット及びデメリット)があるはず。

まず、「防府の将来像」を示すこと。その為に、このことが必要であると問うてもらいたい。

市議会議員定数減は時代の趨勢であろう。しかし、半減がいいのか、経費の削減が求められているのなら、他の方法もあるのではないか？

いずれにしても、次期市議会議員選挙は2年後なのであるから、時間をかけて一方的ではない結論に導くのも政治手腕であろう。

民主党マニフェストも昨年と今年随分違ってきた。時の移りの早さに柔軟な対応も必要なのでは。

ドロドロとした笑顔が少ない政治を見るにつけ、具体的に地域で自分の残された人生をかけて、子どもたちのために、未来のために、尽力をされている方がとても清々しく思える。